時短&ラクな仕事服で働く女性を応援する

kay me

代表取締役社長
毛見純子

けみ・じゅんこ／2000年第一文学部卒業。株式会社ベネッセコーポレーションで営業とマーケティングに携わったのち、PwC、ボストンコンサルティンググループで経営戦略コンサルタントに従事。08年にマーケティングコンサルティング会社設立。11年に女性向け仕事服ブランド「kay me」を創業。リードデザイナーも務めている。

「一瞬で華やか ずっとラク」をコンセプトにした働く女性のための仕事服ブランド「kay me（ケイミー）」。動きやすく、自宅で洗濯が可能なジャージー素材を用いたワンピースやジャケットのほか、靴、バッグなどを展開。働く女性の目線に立った商品展開と、日本の職人による高品質なものづくりにこだわり、SNSなどを通して成長を続けている。

SDGs

取材・文=村上佳代、撮影=小泉賢一郎（2000年政経）、写真提供=kay me

お客さまの「欲しい」に応えながら「衣料廃棄ゼロ」を実現

「女性がもっと活躍することで世界は変わる。そのためにも、女性の経済的な自立と幸せを支えたいという思いが強くなりました」

そう語る毛見純子さんが2011年に立ち上げたのが、働く女性の仕事服ブランド「kay me」だ。

「プレゼンテーションや講演などで人前に出る仕事の場合、華やかな印象を与えたいもの。でも、よくある仕事向けのジャケットやスカートは動きにくいものが多く、長時間着ていると疲れてしまいますし、クリーニングが必要で手間もかかります。1日中ラクに着られる仕事服のニーズは大きいと考えました」

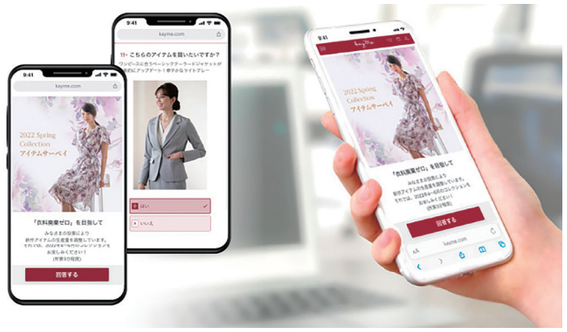
独自開発したストレッチ性のあるジャージー素材のワンピースやスーツ、仕事のシーンを想定して機能にこだわった軽量のバッグなどが大ヒット。服はどれも家庭で洗濯できる素材という、徹底したこだわりをみせる。もちろん、シルエットを美しく見せるデザイン性も兼ね備える。

また、アパレル業界の過剰在庫・大量廃棄に疑問を感じていたこともあり、創業時から「セールなし」「衣料廃棄ゼロ」を10年連続で実現してきた。自身のキャリアや経験をマーケティングにも生かしている。

「過剰在庫を持たないために、発売前にお客さまにオンラインサーベイを実施し、需要を予測しています。また、生産前のサイズオーダーの受け付けも開始。セールなしで売り切れる量を生産しています。はやり廃りのないデザインなので、長く使えるところもポイントです」

アパレル業界でいち早く持続可能なものづくりに取り組み、成長してきた「kay me」。今後はアジアのマーケットも狙っていく。

靴やバッグには毛皮、皮革を一切使わず、上質なヴィーガン素材を使用。高いクッション性を備えたインソールと軽量ソールを用いた「ぷにぷにパンプス」はストレッチ性が高く、歩きやすい。素材、カラー、サイズを指定してオーダーできる



商品発売前にはSNSやメールマガジンなどを通じて、サーベイを実施。一晩で1,000以上の回答が集まることも。お客さまの意見を吸い上げ、その結果を基にアイテムのデザインや生産数を決定している

どのアイテムもストレッチ性が高くて動きやすく、立体的な構造で体形をきれいに見せる効果がある。自宅で洗濯してもシワにならず、ワンピースにジャケットを羽織るだけでコーディネートが時短で完成する

「kay me」のアイテムは全て日本製。背景には「日本の産業を守り、高度な技術を未来に継承したい」という考えがある。また、公正な価格で取引することで、職人の生産環境を守るとともに品質を管理している